

絵看板 × 商店街 Shop



高田本町商店街では、まちの回遊性向上を目指し、創業100年以上の店舗に創業当時の売り物や商売を表す絵看板を設置する「本町百年商店街プロジェクト」を行っています。インタビュー 絵看板で商店街をにぎやかに「馬出し」の意味を初めて知ったときの驚きがきっかけになり、まちの歴史に興味を持って調べていると、本町には創業から100年以上の老舗店が数多くあることが分かりました。お店とお店、さらに他の歴史景観スポットなどともつなぎ、まちの活性化に生かせないかと考え、出てきたアイデアが絵看板です。

製作にあたっては、江戸時代に使用されていたデザインを参考にしたものもありますが、ほとんどはユニークなオリジナルデザインで仕上げました。面白い表現が多く、目に止まりやすいですね。季節を問わず、イベントがないときにもいつでも来てもらえる仕組みづくりを進めていきたいです。



おおすぎや 大杉屋 宮越紀祢子さん 京都府出身。高田本町百年商店街プロジェクト代表。お馬出しプロジェクトなどの代表を務める。

雁木 × 音楽 Music

さまざまな音楽とパフォーマンスで雁木の魅力を発信する「雁木通りミュージックフェスティバル（雁フェス）」が昨年10月に初開催されました。5ステージで55グループが出演し、歩行者天国にした大町5丁目通りでは、グルメやクラフトなど30店以上が出店しました。



インタビュー 音楽で雁木の良さを

音楽を通してなら気軽に雁木や町家の良さを伝えられると思い、このイベントを企画しました。ゲストも招きましたが、出演者の大半は一般の方。募集の際、バンド演奏がかなり多くなるのでは、と予想していましたが、意外にも琴や三味線などの和楽器演奏もあり、町家の雰囲気によく合っていました。

有名な仙台市内のジャズフェスティバルは、2日間で何十万人もの人が仙台のまちを訪れますが、初回当時の出演者は25組だったそうです。いずれは「雁フェス」も同じように大きく育ててほしいですね。



ふたば 二葉楽器 さとうのりお 佐藤 宣夫さん 雁木通りミュージックフェスティバル実行委員長。

世界館 × 広場 Plaza

市では、日本最古級の映画館「高田世界館」(本町6)の隣接地に交流広場の設置を検討しています。昨年11月に、広場の活用アイデアを意見交換する「まちづくりミーティング・みんなの交流広場を考える」が高田小町で行われ、地元の人や上越に移住した人、学生など大勢の人が集まりました。



インタビュー 多くの人が集う広場へ

おおくほ 大久保さん：高田世界館は魅力あふれる場所です。さまざまな人が惹き付けられて自然と集まるような広場にするにはどうすればよいか、夢は膨らみますね。

さとう 佐藤さん：雪遊びができる場所や、イルミネーションを施したデートスポットなども面白そうですね。映画館や私たちのカフェも含めて、年代問わず、新しいことにチャレンジするための「案内所」のような広場を期待しています。



カフェ 世界ノトナリ 佐藤さん(左)、大久保さん(右) 映画好きの大久保さんが、料理が得意な佐藤さんとともに、「映画の後ろにお茶や食事を楽しむ場所」として、高田世界館の隣にある築90年の町家を改装して作ったカフェ。

町家 × リノベーション Renovation

昨年10月、高田市街地を拠点に活動しているさまざまな分野の有志が集まり「Kinaiyaプロジェクト」が発足しました。参加者を募り、町家の改装(リノベーション)を実際に体験してもらう「ミンナデ工務店」などのイベントが開かれています。

インタビュー 町家の魅力を再発見

Kinaiyaプロジェクトは、「高田のまちに興味を持ってもらいたい、来てもらいたい」という思いで始まりました。昨年10月に初めて開催した「空き家Bar」は、空き家となった町家を会場に飲み物や食べ物を持ち寄るというイベント。Facebookで告知した結果、若者を中心に予想以上の参加者が集まり、驚きました。

雁木の街並み、そして夕暮れの町家からこぼれる明かりはとても綺麗で、空き家にしておくのはもったいないです。「ミンナデ工務店」などのイベントが、空き家が減るきっかけになればいいですね。



リワークス Re:Works うちだ りょうすけ 打田 亮介さん 北海道出身。夫婦で高田に移住し、自らリノベーションしたカフェを開店。内装の設計・施工・店舗プロデュースなども手掛ける。Kinaiyaプロジェクトの中心メンバー。